

(様式4)

## 学位論文の内容の要旨

氏名 砂賀 道子 印

### Development and Validation of the Breast Cancer Survivors Resilience Scale

(乳がんサバイバーのレジリエンス尺度の開発と信頼性・妥当性の検討)

#### 1. 研究の背景・意義

乳がんは日本において 1999 年から女性のがん罹患率第 1 位となり、以来、年 5%の割合で増加し続けている。乳がん治療の多様化および長期化により、乳がんサバイバーは長期にわたり治療に伴う複雑な問題を抱えながら生活している。他のがんに比べ罹患年齢が低く、45～50 歳代に大きなピークがあることから、家庭や職場での重要な役割を担う時期と重なる。そのため現在大きな社会的問題となっている就労問題が顕在化しやすく、治療に伴う副作用やボディイメージの変容などのアピアランス支援、性・生殖、遺伝などに関する支援等、専門性の高い支援が診断後早期から必要となる。

レジリエンスは困難を乗り越えるために必要な力であり、長期的に生きる意欲に影響を持つと言われていることから、レジリエンスを的確に把握できれば早期の段階から看護介入の必要性をアセスメントし、サバイバー個々の状況に応じた効果的な支援が可能となると考える。

#### 2. 研究目的

乳がんサバイバーのレジリエンス尺度 (BCRS) の開発と信頼性・妥当性を検討することである。

#### 3. 方法

質的研究を基に量的調査票を開発し実施するため、J.W.クレスウェルらの提唱する Mixed Methods Research の探究的デザインを用いた。調査対象者は乳がんと診断され手術を受けた 65 歳までの女性、術後 3 か月～5 年程度経過し外来通院しており、調査時点で再発・転移がない人、心身の状態が安定しており、日本語が理解できる人とした。

尺度の信頼性は再テスト法による安定性と、クロンバック  $\alpha$  係数による内的整合性により検証する。妥当性は専門家および予備調査、因子分析による内容的妥当性、MAC/SF-8 との相関による基準関連妥当性、因子分析による構成概念妥当性、BCRS 得点で 2 群に分け t 検定および Multi-Dimensional Scaling による弁別的妥当性を検証する。

倫理的配慮は 2 施設の倫理審査委員会の承認を得て行い、対象者には文書と口頭で研究について説明し同意を得て行った。

#### 4. 結果・考察

レジリエンスの概念分析やレジリエンスの促進要素などから下位尺度 (98 項目) を構成し、がん看護のエキスパートによる内容妥当性の検証により 70 項目の BCRS 原案を作成した。その後、乳がんサバイバー 25 名を対象とした予備調査により 64 項目の BCRS 修正版を作成した。

本調査は 240 名に 64 項目の BCRS 修正版 (4 段階のリッカート尺度) および 40 項目で構成された Mental Adjustment to Cancer Scale (MAC)、8 項目で構成された The MOS 8-Item Short-Form Health

Survey (SF-8™) を用いて 2 施設で実施した。再テストは本調査の際に同意が得られた 40 名に再テスト一式を配布し、本調査後 1 週間から 1 か月の間に返送を依頼した。本調査 230 名、再テスト 37 名の有効回答を分析した。

対象者の平均年齢は 49.9(±7.7)歳、術後平均月数は 29.1(±16.6)か月、80%が既婚者であり有職者は 64%であった。手術は乳房温存術 49%、乳房切除術 45%、術後補助療法は内分泌療法が 81%と最も多かった。病期では Stage I が 67%であった。BCRS の質問項目の選定には項目分析を行い、天井効果（フロア効果への該当はなし）と I-T 相関分析により計 29 項目を削除し 35 項目とした。

BCRS の信頼性は尺度全体としてクロンバック  $\alpha$  係数 0.88、各因子でも 0.84~0.88 であり内的整合性が確認できた。再テストと本調査との Spearman の相関係数は 0.891 であり安定性を確認できた。内的一貫性も Spearman-Brown の信頼性係数 0.934 と高かった。

構成概念妥当性については主因子法・プロマックス回転により探索的因子分析を行い、最終的に『Individual protective』、『Social protective』の 2 因子 16 項目となった。確証的因子分析では GFI=0.914、AGFI=0.885、CFI=0.947、RMSEA=0.057 となり、因子分析を支持する結果となった。基準関連妥当性については BCRS と MAC の FS と弱い正の相関が、H/H、F とは弱い負の相関がみられた。SF-8 の MH、GH、VT と中程度の正の相関が、RE、SF とは弱い正の相関がみられた。弁別的妥当性については BCRS 得点で 2 群に分け (Mean ± SD)、MAC・SF-8 と t 検定を行った。MAC の FS、SF-8 の MH、GH、VT、SF、RE と BCRS との間には有意差が認められた。Multi-Dimensional Scaling では、BCRS との類似性を距離や布置から見ると、MAC の FS、SF-8 の MH、GH、VT とは BCRS と同じ領域に位置し距離も近かった。一方で H/H、F、A、AP は BCRS と対極に位置し距離も遠いことから、BCRS とは弁別すべきものであることが示された。以上、BCRS は一定の信頼性・妥当性を確保しており、今後、臨床適応していくことで、乳がんサバイバーのレジリエンスを測定する有用な尺度になり得ることが示唆された。